

2月中旬に夏日になったり、また冬に戻ったり、皆さん体調に気をつけましょう！

/// I N D E X ///

- ・ ISO 関連解説...-----...ソーシャル LCA の DIS 投票の結果
- ・ LCA の実務 mini 12----“removal”の和訳は「吸収」？
- ・ LCAF からお知らせ...今年度の検定試験は3月2日の初級検定で最後です。
- ・ 編集後記.....君の瞳に乾杯！

#### ■■ LCA 関連解説：ソーシャル LCA の DIS 投票の結果 ■■

LCAF 通信 No.66 で、ソーシャル LCA の DIS 投票が行われていることを報告しました。その結果、賛成 26：反対 7 で DIS の発行が認められました。2月20日（火）・21日（水）・22日（木）に各国から提出されたコメントに基づいて、修正する作業が行われました。3月中旬のワーキンググループを開催してさらに修正が行われます。

という順調のようですが、この DIS 投票では棄権が 25 もありました。つまり賛成する国と、棄権する国がほぼ同数であったということです。ISO の各国による投票は、棄権の数を数えないので、賛成多数で「承認」になったのですが、こんなに棄権が多い結果を私は今まで見たことがありません。

また、反対 7ヶ国は、オーストラリア、カナダ、エジプト、フランス、ドイツ、日本、オランダであり、このソーシャル LCA のワーキンググループに参加している主な国がこぞって反対しているという状況です。日本は、文章が国際標準規格としてまだ十分練られていないと判断して反対しました。驚いたことに、提案国であり議長を出しているドイツが反対しています。また、この DIS で主要な方法であるリファレンス・スケール法の提案主体であるオランダも反対しています。結局、十分に議論を重ねている国は反対し、よくわからないから「賛成」という国によって DIS が承認されたということだと思います。よくわからないから「棄権」の方がまだ良心的だと思いますが、既に述べたように「棄権」は投票結果には反映されません。

2月20日（火）・21日（水）・22日（木）のワーキンググループの議論も合意がとれない点はいくつかあります。私は DIS をもう一度 DIS2 として出して各国のコメントを求める投票をしたらどうかと言ったのですが、それをやると提案から 3 年以内で規格を発行することができず、この規格提案がキャンセルになるので DIS2 は出せないということでした。3 年以内で発行するというルールにより、合意がとれないまま国際標準規格が発行されるということに、またなりそうです。

#### ■■■ LCA の実務 mini12：“removal”の和訳は「吸収」？ ■■■

大気中の CO2 を増加させない「カーボンニュートラル」だけでは気候変動を抑制できないので、バイオ炭や DAC など大気中の CO2 を固定して貯留する「ネガティブ・エミッション技術」が必要とされるようになっていきます。この大気中の CO2 の“removal”を何と訳すかが、規格協会の IWA42:2022（ネットゼロガイドライン）の仮訳ワーキンググループで話題になりました。

バイオ炭や DAC による大気中の CO2 の固定ですので「除去」だと思ったのですが、「吸収」とすることになりました。これは、植林が唯一の“removal”であったかなり昔に、大気中の CO2 の「吸収」と訳しているのが、ISO の翻訳の世界の整合性を保つためと言うことです。

確かに「吸収」でも意味は通じると思いますが、ISO14068-1:2023（カーボンニュートラリティ）の定義では、「排出量」と「除去量」を等しくするという訳の方がしっくりするように思います。ISO の翻訳を読むときには注意してください。

ショートノートですが、2024年2月28日（水）14:00～16:45：LCA 日本フォーラムの「国際動向セミナー」で、ISO14068-1:2023（カーボンニュートラリティ）については稲葉が、IWA42:2022（ネットゼロガイドライン）については、エネルギー経済研究所・工藤 拓毅氏が解説します。後半には削減貢献量の解説もあります。完全オンラインです。申し込みは以下です。

<https://lca-forum.org/seminar/index.html>

#### ■■■ LCAF からのお知らせ ■■■

○中級研修の副読本を作りました。来年度からインターネット上で公開します。

○今年度の検定試験はこれで最後です。次号で来年度の予定をご連絡します。

初級検定試験：2024年3月2日(土)

○[好評につき増刷します。] 参考図書「基礎から学ぶ LCA～LCA の実施と活用～」

以下からお申込みください。(3,000円+税+送料)です。

<https://lcaf.or.jp/education/textbook/>

この参考図書の図表をパワポに貼り付けた資料の販売を始めました。価格は要相談です。

## ■■ 編集後記 ■■

久しぶりにコンサートに行きました。ラベルのスペイン何とかという組曲を聴きました。その3曲目が「ハバネラ」とプログラムに書かれていたので、私が大好きなカルメンのハバネラに似ているかと楽しみにしていたのですが、全く違ってびっくりしました。プログラムの解説によると、ハバネラは「当時スペインが統治していたキューバのハバナの曲」という意味だそうです。そんなことも知らずにカルメンを楽しんでいた私は、言葉にはかなりいい加減な人間なのかと反省しました。

言葉と実態の問題は、美術の世界では古くからのテーマのようです。ルネ・マグリットがパイプの絵に「これはパイプではない」と書いたのはあまりに有名ですし、マルセル・デュシャンが男性用小便器に「泉」と付けたのも美術史上の大きな話題です。

同じ「言葉」なのですが、翻訳の世界では英語と日本語の違いが話題になることがあります。映画「カサブランカ」の“Here's looking at you, kid.”という台詞に「君の瞳に乾杯」という字幕を付けたのは名訳とされています。「Base ball」を「野球」としたのも、私は名訳だと思います。

LCAも英語で議論されていることを日本語にする苦労があります。“Avoided Emission”を「回避排出量」とせず、その使用方法を踏まえて「削減貢献量」としたのは、日本化学協会の方々の名訳だと思います。最近では、本号の「LCA実務 mini」で指摘したように、カーボンニュートラリティやネットゼロで良く出てくる“residual emission”が、規格協会のIWA-42の仮訳ワーキングで「残余排出量」とされました。定着するでしょうか？

もう一つまだ定訳がないワードがあります。「unabated emission」です。削減を続けている期間にまだ残っている排出量ですが、皆さんなら何と訳しますか？ 言葉にかなりいい加減な私は「現時点では削減できていない排出量」くらいしか思いつきません。「インベントリ分析」のように「アン・アベイテッド排出量」とカタカナにするわけにも行かないだろうと日夜心配しています。

(LCAF 理事長 稲葉 敦)

ご意見、ご感想、この「LCAF 通信」の配信停止のご連絡はこちらまで  
[lcaf-contact@lcaf.or.jp](mailto:lcaf-contact@lcaf.or.jp)

一般社団法人 日本 LCA 推進機構

Japan Life Cycle Assessment Facilitation Centre (LCAF)

(エルカフと呼んで(読んで)ください)

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 1-36-7

アルテール池袋 608

電子メール：lcaf-contact@lcaf.or.jp

URL：<https://lcaf.or.jp/>